

銀賞

保全マンとオペレーターとの繋がり

愛知製鋼株式会社

浦田 祐貴

私は、クレーン保全係に配属されてもうすぐ 1 年になる新人保全マンです。クレーン保全係の主な業務としては、クレーンの点検・診断・計画補修・改善活動があります。またトラブル発生時には、迅速な対応ができるように 24 時間体制で、日々保全管理を行っています。配属されて間もない頃、初めて天井クレーンを目の当たりにした時、想像以上の大きさに圧倒されたのを今でも鮮明に覚えています。さらに、工場中のクレーンおよそ 230 台を私を含め 11 名で保全管理しているという現状に驚きを隠しきれず、新人のわたしは「どうやって 11 名で管理しているんだろう」と疑問に思っていました。

配属から数ヶ月がたったある日、先輩がオペレーターへ教育する日がありました。その日はオペレーターの自主保全を支援することが目的の活動でしたが、新人の私としても、とても貴重な体験だと思い、同行をお願いしました。そして、知識を増やせるようにと気付いたことをメモに残すことにしました。オペレーターの方々も、熱心に先輩の話を聞いていて「ここの点検基準をもう 1 回教えてくれないかな」や「ブレーキの調整に自信がないから教えてくれないかな」等、真剣にクレーンについての理解を深めようとしていました。その時の私はオペレーターミスによって発生したトラブルを何度か経験し、オペレーターに対してあまり良い印象を持っていませんでしたが、オペレーターの真剣で前向きな姿を見て、印象ががらりと変わりました。運転だけではなく、日常点検や使用前点検を通して、オペレーターもクレーンを管理していることを知りました。オペレーターの重要性を思い知らされた私は、教育後に先輩へ、「オペレーターの存在ってとても大きいですね」と伝えると、先輩は、「良い所に気付いたな。オペレーターは、俺たちには分からない運転中の違和感や異常音を教えてくれるから、大きなトラブルに繋がる前に不具合を発見することができる。それを聞き出すのも俺たちの仕事だぞ」と教えてくれました。

私は、配属当初に抱いていたあの疑問を理解できた気がしました。「230 台を 11 人でどう管理しているのか」確かにクレーン保全係は、少人数で日々保全管理を行っていますが、現場のオペレーターの方々を合わせると、何十人、

何百人にもなります。私たち保全マンと、オペレーターが役割を分担し、情報を共有し合うことで、効率よくクレーンの保全管理ができていたんだと気付くことができました。そして、オペレーターと保全マンのコミュニケーションを密にしていくには、やはり会話、対話が大切だと思い、今までの経験を思い返してみました。真っ先に浮かんできたのは、同じ班の先輩の姿でした。先輩は、トラブル対応の終了後や、工事打ち合わせの機会を活かし、オペレーターや相手課責任者の方々との会話を積極的に取るようにしていました。そうすることで、オペレーターの方々が感じる小さな違和感や、気になることを聞き出すことができ、さらに早い段階での処置、対策を練ることができます。今までは先輩に任せてばかりでしたが、今後は私がそういう行動をとらないといけません。最近では工事の作業届回しや、作業時間の調整へ行くことが増えましたが、心掛けていることは、大きな声で挨拶をし、会話を始めることです。それが、功を奏したのかは分かりませんが、今まで一度も名前と呼ばれたことがなかったオペレーターの方と話している時に、初めて名前と呼ばれた時はとても嬉しかったです。

今後も現場の方と会話をする機会はどんどん増えてくると思いますが、しっかり名前を覚えてもらい、日々変化する設備の状態を聞き、異常に素早く気付く、故障を未然に防げる1人前の保全マンになることが今の目標です。そして、これからもオペレーターと保全マンとで、クレーンの保全管理の質を高めていけるよう、安全最優先で精進していきます。